

まちづくり団体の取り組み  
～こんなことやっています～

## 真壁の歴史的街並みを守り育てる 「ディスカバーまかべ」

### 伝統と自然が息づくまち まかべ

真壁町は、茨城県の西部に位置し、筑波山系の山々がそびえる緑豊かな町で、古くは真壁氏と浅野氏の城下町として栄えてきました。町内には、国指定史跡「真壁城跡」をはじめとする名所・旧跡や、城下町の面影を伝える蔵や白壁が数多く現存しています。

真壁町の国指定の登録文化財の数は32(平成13年11月30日現在)で、町村別では全国1位であり、全国有数の歴史的文化的遺産が集積する町で、町も歴史的資源を活用したまちづくりと地域振興に力を入れているところです。

### ディスカバーまかべの発足

ディスカバーまかべは、真壁の歴史的な落ち着いた風情を持つ街並みの良さを再発見し、その景観を守り育て、次代につないでいくことを目的に平成5年7月、発足しました。

ディスカバーまかべの会長で、元町の歴史民俗資料館館長でもある塚本さんによると、当時小山高専の河東先生(現千葉工業大学教授)等による真壁の街並みの調査で、約400年前の街割りの姿のまま現在に至っていることの貴重さを知り、青年会議所の有志から保全と活用について相談を受け、会を発足させたのがきっかけとのお話でした。

### 会の活動

会の活動は、ユニークなものであふれています。真壁の古い街並みをテーマとした「フォトコンテスト」をこれまでに5回開催し、内外から大きな反響を呼びました。一方、見世蔵や土蔵などの古い建造物を所有している町の人々も写真に撮られることで、自分達の建造物に誇りが生まれ、街並みを再評価することにつながったといえます。

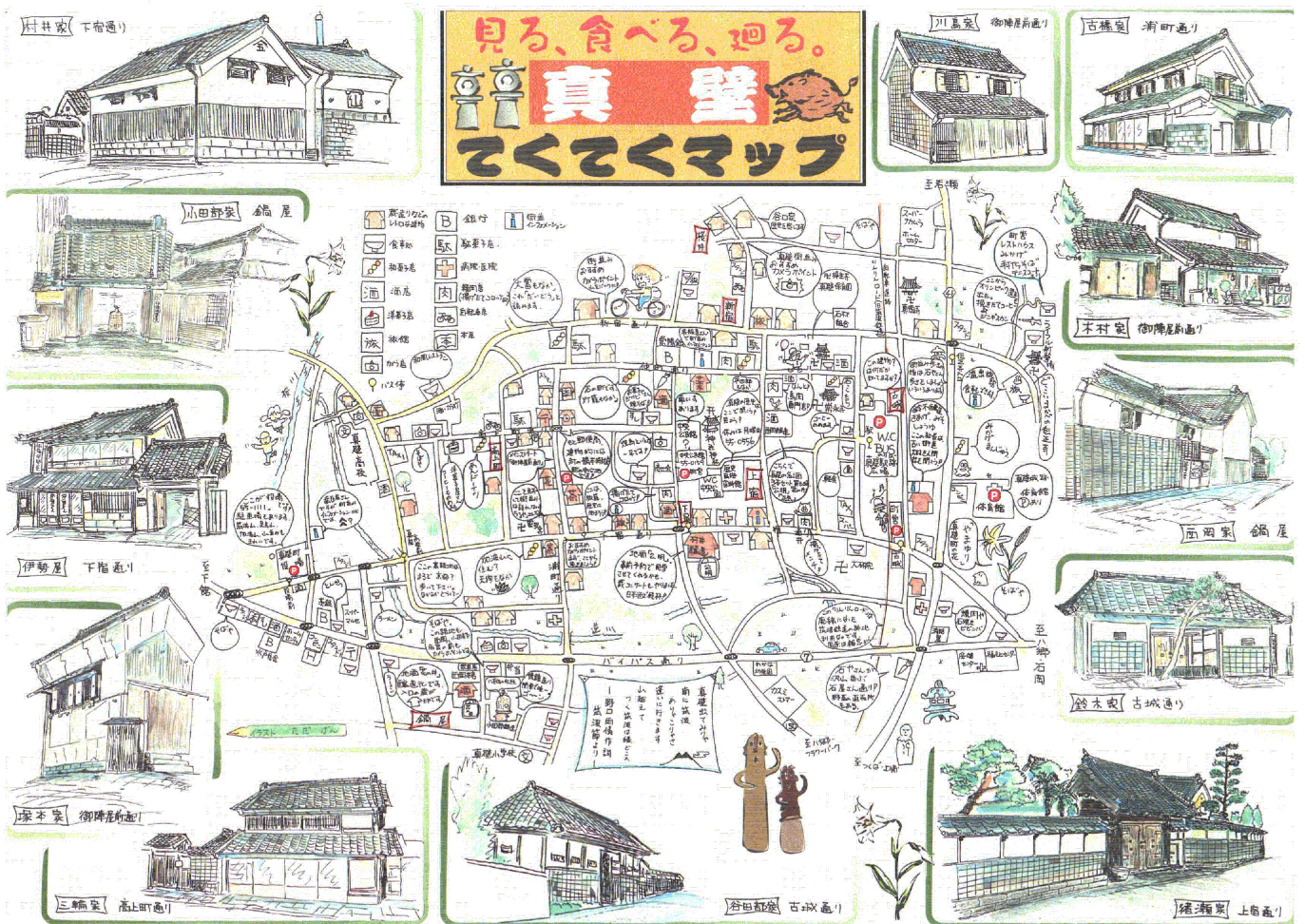
また、平成10年から、年2回蔵や歴史的建造物でのギターやジャズコンサートを実施したり、広報誌「かわら版」を発行し真壁町全域に配布しています。

小学生を対象にした街並み絵画展も開催し、子ども達も自分達の住む真壁の街並みと歴史に関心を持ってきてくれました。

昨年は、街並みの現状調査を踏まえ、真壁の街並みを楽しみながら見て食べて、歩いて廻れることをねらった「ディスカバーまかべいらすとMAP」を作成し、町外から来る観光客にも配布し真壁の街並みの素晴らしさをPRしています。



石蔵で街並みシンポジウムを開催  
建築家協会会員とディスカバーまかべ会員、一般の方が活発な意見を交わした



街並みはみんなの財産

現在会員数は約40名、真壁町内の自営業者、住民、なかには真壁の街並みに魅せられた県外の会員もいます。会員のアイデアと情熱で様々な「まちおこし事業」を企画し、10年近くもの間にわたり継続的な活動を続けてきました。

会長の塚本さんは、「どこへ行ってもパチンコ屋やスーパーだけの町では世界に誇れない。日本の原風景を大切に、次の世代につないでいくことが必要。街並みはみんなの財産です。」と話してくれました。

真壁町の歴史的建造物の適切な保全や修復、街並み全体の修景・整備は、一朝一夕にはならず、そのうえ地域の振興や地域資源のネットワーク化の必要性など、真壁のまちづくりは様々な今後の課題を抱えています。住民主体の誇れるまちづくりの推進を求め、「癒しのこころを大切にした温かみのあるまち」を目指すディスカバーまかべの取り組みはこれからもまだまだ続くことでしょう。

(問い合わせ先: ディスカバーまかべ会長 塚本さん 0296-55-0013)

<http://www.makabe.org>

ディスカバーまかべラストMAP  
登録文化財や飲食店、おすすめカメラポイントまで真壁の街なかの魅力をあますところなく伝えている  
ついでふらっと歩いてみたくなる「てくてくマップ」だ



石蔵コンサート(ジャズ)の様子